

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ま〜ぶる・び〜と		
○保護者評価実施期間	2025年1月14日		～ 2025年1月27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	8 (回答者数)	7
○従業者評価実施期間	2025年1月14日		～ 2025年1月27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4 (回答者数)	4
○訪問先施設評価実施期間	2025年1月14日		～ 2025年1月27日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	8 (回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	2025年2月3日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	仙台市のみならず、他の自治体地域においても活用させていただいていることで、他自治体の取組で良い点を取り入れることができる事や多くの相談支援専門員とのやり取り、アドバイス等を受けられている点である。地域特性や資源の考え方も事業所単体の思考だけではなく、多角的に見て活用して頂けると考えている。	摂食の問題などは、速やかに医療につなげることを行っている。これにより先方での食事や食具・姿勢などのアドバイスも的確にできるようになる。	困った時に相談・使える制度であり即座に対応できる柔軟性が求められていると考えている。行政や相談支援専門員等との連携を図り、運営していく方向である。
2	専門職である、作業療法士・言語聴覚士・保育士を配置しており、現場の困り感を初回からイメージ出来る事と仙台市内にある歯科医との連携を図り、年齢や発達段階に合わせた個々の摂食に関しての注意喚起等も出来るようになった点である。	開所当時より、本人・施設側にとって本当に必要なサービスかどうかを導入前にしっかり検証してからサービスの開始をしている点である。(必ず事前に実調を行ったからの申請手続き) これは、 仙台市ルール として他の自治体でも弊社は運用継続中である。	後進の指導が急務である。いつまでも同じスタッフが行うことでは、「現場」経験を積むことは不可能。今回の法改正は本当に「改悪」であり、OJTがしづらくなった。専従という枠を取り除くことを行政に働きかける。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	振り返りの時間を先方に合わせすぎているため、数多く訪問回数をとることができない状況である。	振り返りの時間を見直すことで解消できていると考えている。しかしながら、先方の都合も検討しなくてはならない。	ZOOM等の機器を活用しながら、振り返りの時間の有効活用を行えるように、環境設定に努める。
2	指導や指摘と思われる点である。あくまでも一緒に本児やクラスメイト、保護者様支援の活動であり、担任の先生達への指導・教育・指摘ではないと常に考えている。そのため、今回このように指導いただいたとか、指摘いただいたということを感じるこの無いように、接遇面の向上が必要と感じる。	担任の先生と管理職(園長・校長)の考え方の相違をどのように埋めるかである。また、人とお話を(接客業)であることである。	接客(接遇)に対しての研修会を行うなどして、スキル向上を図る。